

平成28年2月

# 钱卫斌 学位論文審査要旨

主 査 松 浦 達 也  
副主査 花 木 啓 一  
同 長谷川 純 一

## 主論文

Components of boiogito suppress the progression of hypercholesterolemia and fatty liver induced by high-cholesterol diet in rats

(防己黄耆湯の成分は高コレステロール食によるラットの高コレステロール血症と脂肪肝進展を抑制する)

(著者：钱卫斌、長谷川純一、蔡欣蕊、楊傑、石原巧貴、平昺琼、津野智史、遠藤佑輔、松田明子、三浦典正)

平成28年 Yonago Acta medica 掲載予定

## 参考論文

1. Effects of kampo formulas on the progression of hypercholesterolemia and fatty liver induced by high-cholesterol diet in rats

(高コレステロール食によるラットの高コレステロール血症と脂肪肝の進展に対する漢方薬処方の効果)

(著者：钱卫斌、長谷川純一、津野智史、遠藤佑輔、松田明子、三浦典正)

平成26年 Yonago Acta medica 57巻 147頁～158頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、高コレステロール食を投与することによって高コレステロール血症と脂肪肝を発症するラットモデルにおいて、既に有効性を報告した漢方処方<sup>1</sup>の主要成分である黄耆、生姜、さらに陳皮の主要成分であるヘスペリジンの単独および併用効果をエゼチミブと比較検討したものである。その結果これらの漢方成分は、高コレステロール血症の発症や脂肪肝の進展を抑制すること、さらには抗動脈硬化作用も有することが示唆された。またその作用機序の一部として、コレステロールの吸収抑制と合成抑制が関与していることが明らかにされた。本論文の内容は、脂質代謝学ならびに代替医薬の分野において、明らかに学術水準を高めたものと認める。